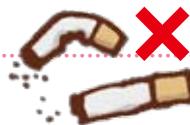


手当の仕方

- 異物が口の中に見えるときは、人差し指をほおの内側に沿って差し入れ、詰まっているものをかきだしましょう。あわててのどの奥に押し込まないように注意しましょう。
- 自宅で応急処置ができないときや、応急処置の方法がわからないときには、医療機関に電話連絡を入れてから、できるだけ速やかに受診しましょう。
そのとき、何を飲んだか手がかりになるもの（空き瓶、空き箱、添付書など）を持って行きましょう。

ピーナッツなど乾いた豆類の窒息による死亡例があります

たとえ食品であっても気道に入ると、呼吸ができなくなります。特にピーナッツ、乾いた豆類、あめ玉などは、3歳までは与えないようにしましょう。また、食品以外では、硬貨、おまけなどの小さなおもちゃ等による窒息事例もあります。気道に入ったときは、子どもを下に向けて背部をたたいて出しましょう。



タバコを食べたらどうすればいいの？

子どもの事故で一番多いものは、タバコです。タバコ1本の中には乳児2人が死ぬくらいニコチンが入っています。特に、タバコの葉を水に浸しておくともニコチンが溶け出して、非常に危険です。

タバコ2cm以上食べたとき、タバコの葉が浸してあった水やジュースを飲んだときは、できるだけ早く医療機関へ行きましょう。

誤飲や窒息はどのくらいの年齢に多いのですか？

ハイハイが始まる7～8ヶ月頃から2歳頃までです。小さい子どものいるご家庭では、医薬品や洗剤・殺虫剤などの化学物質、タバコやタバコの吸い殻が入ったジュースの缶など、子どもの口に入ると危険な物は、子どもの手の届かない所（床から1m以上高い所）に置いてください。

◎心配なときは、かかりつけ医もしくは(公財)日本中毒情報センター(中毒110番)に電話しましょう。

(公財)日本中毒情報センター (中毒110番)

つ く ば : 029-852-9999 (365日、9時～21時対応、情報提供料：無料)

大 阪 : 072-727-2499 (365日、24時間対応、情報提供料：無料)

タバコ専用電話 : 072-726-9922 (365日、24時間対応、情報提供料：無料)